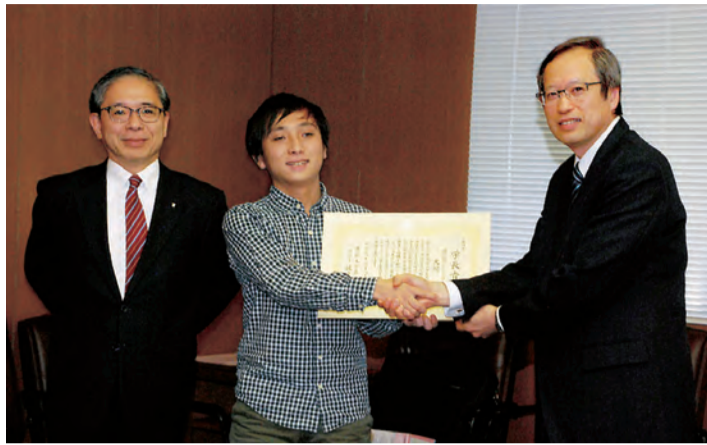


アマチュア囲碁のトップ 大関稔さん(商₂)に学長賞 続く快進撃「今後も挑戦」



賞状を手に佐々木学長と握手を交わす大関さん(中央)。左は囲碁部長の内野教授＝生田キャンパス

研究活動や課外活動などで優れた活躍をした学生やグループを顕彰する学長賞が、アマチュア囲碁の頂点に立った大関稔さん(商₂)に贈られた。大関さんは2016年度(学生本因坊戦とアマチュア)にダブル優勝した。15年度は学生囲碁十傑戦と学生囲碁王座戦、世界学生囲碁王座戦を制しており、アマチュアトップに加え学生囲碁の主人学長から賞状と記念品が手渡された。

佐々木学長が「素晴らしい活躍は専修大学の誇り。学生たちの大きな励みになる」と笑顔でたたえ、大関さんは「これからも挑戦を続けていきたい」と力強く応じた。大関さんは12月21、22日に行われた学生囲碁王座戦を連覇し、快進撃を続けている。

学長賞授与は大関さんで4人目。日本バレーボール協会のアナリストとして学生時代から活躍してきた渡辺啓太さん(平18ネット情報)が受賞(04年)して以来となる。

学長賞授与は12月8日、生田キャンパスで金子洋之副学長、7学部長と囲碁部長の内野明商学部教授が見守る中行われ、大関さんに佐々木重人学長から賞状と記念品が手渡された。

佐々木学長が「素晴らしい活躍は専修大学の誇り。学生たちの大きな励みになる」と笑顔でたたえ、大関さんは「これからも挑戦を続けていきたい」と力強く応じた。大関さんは12月21、22日に行われた学生囲碁王座戦を連覇し、快進撃を続けている。

「ブラボー」鳴りやまぬ拍手



専ファイル定期演奏会

専修大学フィルハーモニー管弦楽団(王伸子団長の第44回定期演奏会が12月17日、川崎市ミューザ川崎シンフォニーホールで開かれた。楽団は学生メンバー40人と賛助会員合わせて83人編成。メインのシベリウス「交響曲第2番」を力強く流麗に演奏し、若々しい音楽がホールいっぱいに響き渡った。写真。会場を埋めた800人の聴衆から「ブラボー」の音が上がり、割れんばかりの拍手がいつまでも続いた。

このほかロッシニ「セビリアの理髪師」、ドビュッシー「小組曲」を披露。指揮はオーボエ奏者でもある林憲秀さん。学生代表の栗原菜さん(文3・ピアノ)は「弦

外国語のススメ

外国語教育研究室

— 53 —

寺尾 格 経済学部教授

タイトルの言葉は、豊かな人生を送るための準備は？ という問いの答えとして、記憶に残っています。外国語も、スポーツも、楽器も、どれも新しく始めようとする、入門の壁はそれなりに高いものがありますから、一生

一方は語学の教員なので、外国語は一応OKです。スポーツは若いころは登山をしていましたが、膝を痛めた現在は水泳をやっています。残念ながら楽器は何もできませんが、「歌う」ことを拡大解釈しています。留学していた頃には、いつも「♪名も〜知らぬ〜遠き〜島よ〜り〜♪」と、しみじみ歌っていました。

一つの外国語とスポーツと楽器と

続けるためには、若い頃にある程度の素養が必要！ という趣旨でしょう。少しでもできると楽しいのですが、奥義を窮めようとするとなかなか難しい。どれかだけを二つとか、三つではなく、それぞれを最低「ひとつ」ずつ、というのがミソでしょう。外国語は知的な訓練、スポーツは身体の鍛錬、楽器は情操の安定で、「頭と身体と心」の三つが合わさって、初めて「豊か」な人生が送れるということになります。

外国語の勉強では、新しい発音の練習はスポーツの身体訓練と同じです。新しいイントネーションの練習は、実は歌を歌うのと同じく音感が重要になります。スポーツや楽器でもリズム感や大事です。言葉による交流も必要不可欠です。もしも三つの分野で欠けているところがあれば、何かを始めてみませんか？ (外国語教育研究室長・担当はドイツ語) ※短縮版。全文はCALL教室ホームページで

エチオピアで陸上競技指導



青年海外協力隊員 小山哲ノ介さん



後輩らに中間報告

JICAボランティアの青年海外協力隊員として、エチオピアで奮闘する小山哲ノ介さん(経済学部休学中)が昨年11月に一時帰国し、所属の狐崎知己ゼミで後輩たちに約1年間の活動を報告した。

小山さんは昨年1月、2年間の予定で、スポーツの普及や人材支援に取り組むためにエチオピアの首都アディスアベバに赴任した。エチオピアは1960年のローマと64年の東京両五輪のマラソンで連覇したアベベ・ビキラを生み、現在でも金メダル選手を輩出している。

小山さんは大学2年次まで助んできた陸上競技(中・長距離)や、狐崎ゼミで開発経済を学んだ経験を生かし、エチオピア陸上連盟ナショナルチームのエチオピアで選手とともに走る小山さん

チームの指導者の一員になって強化プロジェクトに取り組んでいる。特に力を入れているのが陸上選手のための食事栄養面。強くなるといって、選手は練習メニューとともに食事メニューを調査、日本体育大研究室の協力で分析を進めている。

「赴任した当初は選手たちに受け入れてもらえず苦労したが、エチオピア人の同僚に協力を求めることで活動の幅が広がった。現地の人たちと関係を築いていくことが大切と分かった。残された約1年の任期の中でプロジェクトを完成させた

い」と意気込む。さらに、巡回スポーツ教室などで子どもたちを走る楽しさを伝えており「スポーツを通して子どもたちの教育や人間形成の役に立てたら」と笑顔で語った。

また、「主食のインジエラ(スポンジ状の発酵パン)は酸味が強くて強烈な味。苦手だったが今は大好きになった。ミネラルや鉄分が豊富で陸上選手に適した健康食品」と語った。ゼミ生から「現地の言葉を話してみたい」と言われアムハラ語を披露。生活面でもすっかりエチオピアに溶け込んでいる様子だった。



ジャズに酔う

12月15日、生田キャンパスアトリウムで年末恒例のクリスマスコンサートが、32人の部員が1、2年次生によるジュニアバンドと、3、4年次生のレギュラーバンドに分かれて出演。ジャズの定番「In the Mood」の合間のソロ演奏では、即興でクリスマスソングを演奏し、気分を盛り上げた。

深堀代表は「ビッグバンドの魅力伝えることができた」と語った。



留学生との交流ポウリング大会

留学生と日本人学生が腕を競う交流ポウリング大会が12月13日、東京都世田谷区の経堂ポウリング会場で開かれた。日本人学生18人、留学生は韓国、中国、アメリカ、ドイツ、カナダから10人で学部長・院生のほか日本理解プログラム(BCI)受講の短期留学生も参加した。

腕を競う交流ポウリング大会が12月13日、東京都世田谷区の経堂ポウリング会場で開かれた。日本人学生18人、留学生は韓国、中国、アメリカ、ドイツ、カナダから10人で学部長・院生のほか日本理解プログラム(BCI)受講の短期留学生も参加した。

大会結果は次の通り。(敬称略)▽総合優勝 野田知宏(商3)▽留学生の部1位 ベッツェ・カイル・エドワード(米ネブラスカ大学リンカーン校)▽女子学生の部1位 ラディ・クロエ・エリザベス(同)

親睦を深め、笑顔の日本人学生と留学生

活動中の写真を見せ、笑顔で体験を語る小山さん11月11日、生田キャンパス